

シラバス

指定番号 269

商号又は名称: 大阪高齢者生活協同組合

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目ざすべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	2	2	0	<講義内容> 介護保険サービス(居宅、施設) 介護保険外サービス 講師による講義の他、視聴覚教材の活用で理解を深める。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	<講義内容> 居宅、施設の多様な現場におけるそれぞれの仕事内容 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談) ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの業務の流れとチームアプローチ・他職種、インフォーマルサービスを含めた地域の社会資源との連携
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職の基本的概念である「自立支援」及び利用者の尊厳について、多くの具体例に沿って解説し、人間として尊厳ある生活がいかに重要なことであることを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<通信学習課題の内容> 2H 人権と尊厳の保持 QOL (Quality of Life) の考え方、ADL (日常生活動作) と QOL (人生の質)、高齢期の QOL と介護 ノーマライゼーションの理念と歴史、そして介護 虐待防止・身体的拘束禁止 個人の人権を守る制度の概要、判断能力の低下した高齢者の権利擁護制度 <講義内容> 1H

				通信学習課題の解説及び質疑応答及び高齢者虐待の事例
②自立に向けた介護	4	1	3	<通信学習課題の内容> 2H 自立支援の考え方 介護サービスにおける自立とは、残存能力の活用、自己決定、個別支援 介護予防の視点、介護予防特定高齢者施策 <講義内容> 1H 通信学習課題の解説及び質疑応答及び玉ねぎモデルによる自立支援
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<講義内容> 2H 高齢者の人権 障害者の人権 その他の人権問題
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	実際の就業時の観点から介護職の種類、専門性、多職種との連携について解説し、それに伴う職業倫理、社会的責任についても理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<通信学習課題の内容> 1H 少子高齢社会と介護システム、地域包括ケアシステム 対人援助の原則、自立支援、潜在能力や意欲を引き出す介護、根拠ある介護、介護に関する職種 <講義内容> 1H 通信学習課題の解説及び質疑応答及び地域密着型デイサービスの多職種連携の実践事例
②介護職の職業倫理	2	1	1	<通信学習課題の内容> 1H 誠実業務、信用失墜行為、プライバシーの尊厳 <講義内容> 1H 通信学習課題の解説及び質疑応答及び倫理の視点から高齢者虐待を考える
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 0.5H 介護に関する安全の確保、リスクマネジメントと関連用語の理解、事故予防、安全対策 介護事故が起きてしまった時の対応、感染対策 <講義内容> 0.5H 通信学習課題の解説及び質疑応答
④介護職の安全	1	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 0.5H 介護職の心身の健康管理 感染症予防、腰痛予防ほか <講義内容> 0.5H 通信学習課題の解説及び質疑応答
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名		(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
指導目標		介護職として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得し、利用者等へ説明できるレベルまで学習する。		
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
①介護保険制度	3	0.5	2.5	<通信学習課題の内容>2.5H ・介護保険制度創設の背景及び目的・動向 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 <講義内容>0.5H ・通信学習課題の解説及び質疑応答
②医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	<通信学習課題の内容>2.5H ・医行為と介護・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーション <講義内容>0.5H ・通信学習課題の解説及び質疑応答
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	<通信学習課題の内容>2.5H ・障害者福祉制度の概念 ・障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ・個人の人権を守る制度の概要 <講義内容>0.5H ・通信学習課題の解説及び質疑応答
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名		(5) 介護におけるコミュニケーション技術		
指導目標		高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき(とるべきでない)行動例を理解する。また、チームケアにおけるコミュニケーションの重要性を理解し、記録・報告などの専門的知識と技術を学ぶ。		
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<通信学習課題の内容> ・利用者、家族とのコミュニケーションの意義と目的 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 <講義内容>1H ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示などを通して、利用者への共感的理解を助けるアセスメントの手法を学び、コミュニケーションの実際を理解する。 <演習実施内容>0.5H いろいろなハンディキャップをもった利用者を想定し、受講生

				同士でロールプレイング演習を行う。
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<通信学習課題の内容> ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的、具体的な方法について学ぶ。 <講義内容> 1H ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示などを通して、チームコミュニケーションの実際を理解する。 <演習実施内容> 0.5H 事例を参照しながら「介護個別援助計画書」を作成する。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	2	1	1	<通信学習課題の内容> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について学び、老化についての考え方や学説、老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいこと老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響、多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。 <講義内容> 1H ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示などを通して、チームコミュニケーションの実際を理解する。
②高齢者と健康	4	2	2	<通信学習課題の内容> ・高齢者の症状・疾患の特徴 ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点について学び、脳梗塞、脳出血などの循環器障がい危険因子と対策、老年期うつ症状、誤嚥性肺炎など病状の小さな変化に気づく視点についても学習する。 <講義内容> 1H ・通信学習課題の解説及び質疑応答。事例の提示。 <演習実施内容> 1H 事例を参照しながら高齢者に多い病気の「介護個別援助計画書」を作成する。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名		(7) 認知症の理解		
指導目標		介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。認知症の概念と健康管理を学び、介護職として、認知症高齢者の適切なケアと支援されるべき人を中心においたパーソンセンタードケアの重要性を認識する。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	<p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のケアの理念として「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・認知症ケアの視点として、問題視するのではなく、人として接すること、できないことではなく、できることをみて支援する大切さを理解する。 <p><講義内容>0.5H</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について学び、老化のしくみと脳の変化、認知症の原因を理解する。もの忘れとの違い、せん妄の症状ほか、アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状についても学ぶ。 <p><講義内容>1H</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	<p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症について、病気の進行に伴ってあらわれる中核症状とBPSD（行動・心理症状）を知る。 ・認知症の人の行動と環境との関係を理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。 <p>これらの学習を通して、認知症をもつ利用者とのコミュニケーション、どのようなケアが必要かを学ぶ。</p> <p><講義内容>1H</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示
④家族への支援	1	0.5	0.5	<p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援として認知症の受容課程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア・エンパワメント）について学び、家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支援していくパートナーであることを学ぶ。 <p><講義内容>1H</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信学習課題の解説及び質疑応答、事例の提示
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障害の概念と ICF（国際生活機能分類）、障害者福祉の基本的な考え方や、介護における基本的な考え方について学習することにより、介護職として高齢者や障害者の身体的または精神的ハンディキャップを援助する実践力を養うことを目標とする。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等（別紙でも可）
①障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> ・障がいの概念、障害者基本法、障害者総合支援法、ほか障害者に関する各法律での定義 ・ ICF（国際生活機能分類）に基づく「障害」の概念 ・ 障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について理解する。 <講義内容>0.5H ・ 通信学習課題の解説及び質疑応答
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> ・ 身体障害（視覚・聴覚・言語・肢体不自由・内部）知的障害・精神障害・発達障害・難病といった障害の医学的側面と、障害の原因となる主な疾患について学ぶ ・ 障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 ・ 障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。 <講義内容>0.5H ・ 通信学習課題の解説及び質疑応答
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> ・ 家族の心理の理解、障がいの受容支援、そして介護負担の軽減といった観点で、家族支援は家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 <講義内容>0.5H ・ 通信学習課題の解説及び質疑応答
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等（別紙でも可）
①介護の基本的な考え方	4	1	3	<講義内容> 「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかを学び、介護を行うときの心構えだけでなく、法律上の規定も含めて介護の目的、介護の倫理、介護業務の基礎を学習する。 <通信学習課題の内容> ・ 理論に基づく介護、我流介護の排除 ・ 法的根拠に基づく介護 ・ 生活障害という視点 ・ 生活の質（QOL）を高める視点の大切さ

②介護に関するこころのしくみと基礎的理解	4	1	3	<p><講義内容> 介護実践に必要なこころのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら学び、具体的な機能等を学ぶ。</p> <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・障害受容と社会受容
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	1	4	<p><講義内容> 介護実践に必要なからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら学び、具体的な身体の各部の名称や機能等を学ぶ。</p> <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
④生活と家事	4	3	1	<p><講義内容> 生活と家事の理解、家事援助に関する基礎的な知識と生活支援を学ぶ。</p> <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立生活を支える家事と家事援助のポイント ・家事援助に関する基礎的な知識と生活支援 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。
⑤快適な居住環境整備と介護	4	3	1	<p><講義内容> 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用（留意点、支援方法を含む）</p> <p><通信学習課題の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境づくり ・家庭内に多い事故 ・住環境で心がけること ・住宅改修 ・福祉用具貸与
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p><講義内容> 整容に関する基礎知識、整容の支援技術について、身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果について学ぶ。</p> <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の衣服、生活機器（爪切り等）を使った演習 ・事例を使ったグループワーク
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	9	9	0	<p><講義内容> 移動・移乗に関する基礎知識、種々の移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗について ・移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解とその支援方法について ・移動と社会参加の留意点と支援についてなど、総合的に学ぶ。</p> <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際のベッド、車椅子、杖、アイマスク等の福祉用具を使った演習
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p><講義内容> 食事に関する基礎知識、食事環境の整備と食事に関連する用具、自助具の活用方法について ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援についてほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼・嚥下のメカニズムと誤嚥性肺炎の予防・口腔ケアの定義など 総合的に学ぶ

				<p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の食器等を使った演習・食事介助のロールプレイ ・食生活に関するグループワーク ・事例を使ったグループワークなど
⑨入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p><講義内容></p> <p>入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみについて、利用者本人の力を活用し、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響についてほか、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認 ・全身清拭による身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方 ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ・陰部清浄（臥床状態での方法） ・足浴・手浴・洗髪 などについて総合的に学ぶ。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にデイサービスで使用する浴槽を使った演習、ロールプレイ ・清拭による清潔の演習、ロールプレイ
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p><講義内容></p> <p>排泄に関連したところとからだのしくみと、自立に向けた介護、排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法についてほか、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体面（生理面）での意味 ・心理面での意味、社会的な意味 ・プライド・羞恥心、プライバシーの確保 ・最終手段としてのおむつ／おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の方法 ・便秘の予防（水分摂取量の保持、食事内容、腹部マッサージなど） <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する福祉用具を使った演習 ・排泄介助のロールプレイ ・事例を使ったワーク
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	0	<p><講義内容></p> <p>睡眠に関したところとからだのしくみと、自立に向けた介護、睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法についてほか、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ・安楽な姿勢、褥瘡予防 などについて総合的に学ぶ <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメイキング等の環境整備の演習 ・事例を使ったワーク
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	6	6	0	<p><講義内容></p> <p>死にゆく人に関したところとからだのしくみと、終末期介護、終末期に関する基礎知識、生から死への課程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援といった学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケア・介護従事者の基本的態度・グリーフケア ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・他職種間の情報共有の必要性 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例紹介や視聴覚教材の活用による演習、グループワーク

⑬介護過程の基礎的理解	6	6	0	<p><講義内容> 介護過程の目的と意義について学び、介護過程の展開プロセスについて、チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について学び、利用者それぞれの生活を支える介護を本質的に理解する。</p> <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに関するワーク、ロールプレイ ・実際の活動記録を使った報告のロールプレイ
⑭総合生活支援技術演習	6	6	0	<p><講義内容> 「介護職として身につけていなければならない生活支援技術」について・生活全般にわたる側面的な支援・生活を支援する流れの観点で再確認する。 視聴覚教材の活用により、“尊厳の保持”“利用者主体”“自立支援”“安全”といった生活支援技術を駆使する際に前提となる基本理念と、以下の具体的な介護技術を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防 ・ボディメカニクスの応用 ・体位と姿勢の交換の介助 ・移動と移乗の介助 ・食事の介助 ・口腔ケアの介助 ・排泄の介助 ・衣服着脱の介助 ・入浴と清潔保持の介助 ・整容の介助 ・ベッドメイキング <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例紹介や視聴覚教材の活用による演習、グループワーク
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	<p>車いす、テーブル、エプロン、自助具、いす、クッション、食器、タオル、ストロー、スプーン、箸、フォーク、吸い飲み、とろみ剤/洋式便器、各種おむつパッド、おむつかバー、防水布、タオル・バスタオル、汚物容器、着脱しやすい衣類、トイレットペーパー/一般浴槽、シャワーチェア、入浴台、手すり、洗面器、バスボード、滑り止めマット、すのこ、防水シーツ、ヘアブラシ、くし、シャンプーリンス、石鹸、保湿クリーム、耳栓、爪切り、ドライヤー、シャンプーハット/バケツ、洗面器、ドライシャンプー、ゴム手袋、湯せん用ピッチャー、ビニールシート、エタノール、ガーゼ/歯ブラシ、コップ、受水盆、綿棒、手鏡/寝巻、ベッド、マットレス、布団、枕、シーツ、ベッドブラシ、タオルケット、洗濯かご、エアマット、ビーズマット/移乗介助用ベルト、スライディングシート/手すり、歩行器、歩行車、各種つえ/白杖、アイマスク、弱視用レンズ、文字盤、絵カード/副子、三角巾、包帯、消毒用ガーゼ、段ボール</p> <p>(DVD 視聴用) パソコン、プロジェクター、スクリーン</p>
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	1	1		<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと、今後継続して現場で学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点についてグループワークを通じて振り返る ・介護職としてのさまざまな働き方を視聴覚教材を活用しながら、特にチームでかかわることの重要性を知る。 <p>(方法)</p> <p>チェックシートを使用し、研修全体の振り返りを行う。</p>

②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	3	3	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶということの大切さ ・研修終了後における継続的な研修（スキルアップ）について、下記方法による実例の紹介を通して具体的にイメージできるようにする。 <p>(方法)</p> <p>研修終了後どのような介護職を目指したいか考え、具体的なスキルアップの例等、講師（居宅ケアマネ、訪問サービス提供責任者、通所相談員等）の経験談を通し、意欲向上を図る。</p>
(合計時間数)	4	4	

使用する機器・備品等	パソコン、プロジェクター、スクリーン
------------	--------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

